



地域で子どもたちを育もう！



仙台市の子どもの主体の放課後子ども教室

— 将監^{しょうげん}けやきっこ放課後教室・わいわいパーク黒松（宮城県） —

2010年12月8日、仙台市教育委員会から子ども主体の取り組みを行っている2つの放課後教室と、仙台市立黒松小学校の将監けやきっこ放

課後教室と、仙台市立黒松小学校のわいわいパーク黒松を紹介

いただき、2校を訪問。活動を見学し、コーディネーターに活動について話を聞いた。その内容を紹介する。

（取材文／有馬 正史）

高学年の参加が増えた！

将監けやきっこ放課後教室



スタッフ12名はPTAの保護者と地域のボランティアで構成。活動は、月・水・金曜日は登録児童対象、火曜日は全児童対象自由来館の日として

週4日行っている。登録児童は3年生から6年生まで56人。1日平均40人が参加し、2010年度は175日活動する。

コーディネーターの長内美香子さんは現役のPTA。「ここは子どもたちが楽しく自由に遊ぶ場です。挨拶をする、時間を守る、みんなの物を大切にする、の3つは教室の約束です。年々高学年の登録が増えていきますよ」と言う。その理由の1つにさまざまな年齢の学生ボランティアとの関わりが多いことが挙げられた。仙台にある4大学の大学生6人が自分の進路に関係なく参加して遊んでくれることや、休日や長期休暇には中学生や



将監小にて みんなで葉っぱ探し



黒松小にて
自由広場：好きなこ
として遊んでる！

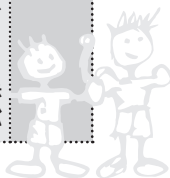


高校生を先生にしたさまざまな活動を行い、普段から学生ボランティアを身近に感じていると言う。

長内さんの話から見えてきたのは、子どもたちと年齢が近く、エネルギーのある若い学生たちが参加してくれていることが高学年の参加が増えてきた理由ではないかということである。放課後子ども教室は、全国的に高学年の参加は少ない。この取り組みから高学年の参加の糸口が見えたような気がした。

大人が本気で向き合う！

わいわいパーク黒松



週の月と土の5日間実施。全児童807人のうち388人が参加（2009年度延べ329人）。活動内容は登録制児童クラブと全児童対象の遊び教室。スタッフ8名、事務局6名（うちコーディネーター2名）。

幼稚園・保育所で幼児教育に携わってきたコーディネーターの今野久美子さんは、「今の子どもたちは、自己主張が強く、互いに関わって遊ぶことが難しい。そのため、安全面や挨拶だけでなく、遊びのルールや言葉遣い、相手の目を見て話すことなどを声掛けしています」と言う。スタッフは、一緒に遊びながら、時には抱っこしたり手をつないだり、子どもの求めに応じて自然に関わっていた。また、「遊びのやり方やヒントは与えませんが、大人が全て仕切らず子ども自身で遊びを展開できるように気をつけています。教室が6年目に入り、学校との信頼関係をより深め、地域の諸団体とも積極的に連携を図るなど努力している」とも言う。最近では、上級生が「ちょい寄り」して下級生と遊んでくれるとか、学校帰りの中学生や大学生の参加、先生方が教室をのぞき子どもに声を掛けたり遊んでくれることも出てきたそうだ。

子どもたちは、大人の本気を見抜く。だから大人は本気で子どもたちと関わることが必要だと感じた。